

平成20年度 国立赤城青少年交流の家企画事業
「ユース・パートナーキャンプ」

< 実施報告書 >

国立赤城青少年交流の家

期日・場所：平成20年8月30日(土)～平成20年8月31日(日)
平成20年9月13日(土)～平成20年9月15日(月)
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立赤城青少年交流の家
〒371-0101 群馬県勢多郡富士見村大字赤城山27

事業名：ユース・パートナーキャンプ
事前研修会
メインキャンプ

趣旨：特別支援教育を必要とする青少年とその保護者を対象とした体験キャンプの企画・運営等を受講者が段階的に講義・実施・ふりかえり等のプログラムで経験することにより障害者理解や実践的な指導力が向上できるようにする。また、大学・福祉行政・特別支援学校等との有機的な連携により、特別支援教育に関わるボランティア養成プログラムを開発する。

事業の特色：LD、ADHD、高機能自閉症等を含む特定の状況下にある青少年が家族と支援者とで楽しいキャンプを経験できるようにする。大学・福祉行政・特別支援学校等との有機的な連携により実現するプログラムで、特別支援教育・福祉関連のボランティアとしての実践力を向上することができる。

募集人員：A(受講者)：高校生・学生・社会人(ボランティア等経験者) 30名
B(本人)：特別支援教育を必要とする青少年 15名
C(家族)：Bの家族 30名

参加者：事前研修会 A(受講者)：14名 B(本人)：10名 C(家族)：10名
メインキャンプ A(受講者)：19名 B(本人)：11名 C(家族)：14名

参加者地域：茨城県：2名、群馬県：67名、埼玉県：3名、千葉県：1名、東京都：5名

企画のポイント：「特別支援教育・福祉に関するボランティアの育成」「ボランティアのステップアップと組織化」の2つに迫ろうとした企画である。

そのために、特別支援、あるいは、障害者対応ボランティア育成という視点から、プログラム、運営方法、組織等を見直し、また、さまざまな配慮を行った。たとえば、実行委員会形式の企画運営から施設ボランティア主体の企画運営へ2年かけ段階的に移行した。

広報のポイント：募集についての広報は、関係機関や青少年団体、県内相談機関等におこなったが、本施設企画事業参加者に行った広報が一番結果に結びついた。大学等のサークルや同好会などに直接連絡を取り広報することも有効化と思われる。

本人・家族の募集については、協力関係にある群馬県発達障害支援センターや群馬大学附属特別支援教育サポートセンター等とおした広報を中心に行った。その後のサポートを考えた場合、適切であったかと考える。

プログラム展開 : <①事前研修 8月30日(日) 1日目>

8:45 受付
 9:15 開会・アイスブレイク
 10:00 演習:本人・家族の出迎え準備
 11:30 お弁当
 12:30 【本人・家族の出迎え】
 13:00 事前説明会・見送り
 16:00 講義・演習「本人理解と障害理解」
 講師:関根恵一氏
 18:15 夕食
 19:30 講義・演習「本人理解と障害理解」
 講師:関根恵一氏
 21:00 ボーンファイヤー
 22:00 シャワー・就寝準備<テント泊>

<①事前研修 8月31日(日) 2日目>

6:00 テント撤収
 7:10 朝のつどい・朝食
 9:00 講義「班別活動の進め方」
 10:00 実習「班別活動の企画立案と準備」
 運営・進行班 食事作り班
 資材・支援班
 12:00 野外食事(試食)
 13:30 演習「ふりかえりと今後」
 14:30 解散

<②メインキャンプ 9月13日(土) 1日目>

8:45 受付
 9:00 開会・演習「班別活動の準備」
 11:30 お弁当
 12:30 【本人・家族】の出迎え
 13:30 メインキャンプ開会式
 14:00 アクティビティー
 18:00 夕食
 19:30 キャンプファイヤー
 小雨のため、ボーンファイヤーを実施
 20:30 【本人・家族】シャワー・就寝準備
 【受講者】打合せ
 22:30 【受講者】シャワー・就寝準備
 テント泊

<②メインキャンプ 9月14日(日) 2日目>

6:00 【受講者】起床・食事作り等
 7:00 朝の散歩
 8:00 朝食
 9:30 アクティビティー
 12:00 お弁当
 13:00 お別れの会・お見送り
 14:15 【受講者】キャンプ片付け
 17:30 演習:ふりかえり
 19:30 情報交換会(夕食)
 21:00 入浴・就寝準備
 22:00 パネリスト打合せ
 宿泊室泊

<②メインキャンプ 9月15日(月) 3日目>

7:10 朝のつどい・朝食
 9:00 講義[パネル形式]
 「障害者の現状とわたしたちにできること」
 10:40 ふりかえり
 11:30 閉会

成

果 : ・福祉ボランティアのステップアップ研修プログラムとしては精練したものができあがった。
 ・施設ボラが主体的に立案・運営に参加したことや「ふりかえり」「分かち合い」を段階的に丁寧に行ったことなどから、参加者の意識の高まりと変容が見られた。総じて参加者としての意識から当事者としての意識に変化した者が増えた。
 ・参加者の中には、市民マラソンの伴走ボランティア、特別支援学級へのボランティアとしての訪問などへ発展するなど、本企画がさらなるボランティアへのきっかけとなった。
 ・本企画での取り組みやプログラムは、全青協の研修会等で紹介することができた。
 ・企画や運営に参画した施設ボランティアたちは、次年度は自分たちの企画として実施したいという

思いを持つようになった。

今後の課題：本年度をもって、本企画を終了する。今後、施設ボランティアを総合的にどのように育てていくかが課題である。

なお、施設ボランティアの会議にて来年度も何らかの形で実施したいという意見がまとまり、施設ボランティア主催事業として実施する方向である。（予算としては、子どもゆめ基金に申請済み）



メインキャンプ準備の活動



夕食の「いただきます」



アクティビティーの
シャボン玉コーナー



受講者によるふりかえり